

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 近畿財務局長

**【提出日】** 平成28年11月10日

**【四半期会計期間】** 第80期第2四半期(自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日)

**【会社名】** 森下仁丹株式会社

**【英訳名】** MORISHITA JINTAN CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 駒 村 純 一

**【本店の所在の場所】** 大阪市中央区玉造一丁目2番40号

**【電話番号】** 06(6761)1131(代表)

**【事務連絡者氏名】** 常務執行役員 森 田 真 司

**【最寄りの連絡場所】** 大阪市中央区玉造一丁目2番40号

**【電話番号】** 06(6761)1131(代表)

**【事務連絡者氏名】** 常務執行役員 森 田 真 司

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第79期 第2四半期 連結累計期間	第80期 第2四半期 連結累計期間	第79期
会計期間		自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高	(百万円)	5,009	5,301	10,432
経常利益	(百万円)	58	120	408
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	42	84	375
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	163	8	585
純資産額	(百万円)	8,718	8,973	9,134
総資産額	(百万円)	13,805	13,297	13,668
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	2.09	4.14	18.48
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	63.1	67.5	66.8
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	307	639	969
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	136	138	440
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	251	317	442
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	1,420	1,770	1,586

回次		第79期 第2四半期 連結会計期間	第80期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	1.37	2.09

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 売上高には、消費税等(消費税及び地方消費税)は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載していません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、足踏み状態が続いておりますが、一部で持ち直しの動きもみられます。個人消費は、雇用者数の増加、物価上昇率の低下による実質雇用者所得の高い伸びを背景に持ち直しつつあります。また円高の影響などから輸出、設備投資は低調に推移していますが、消費税率引き上げ以降低迷が続いていた個人消費が2四半期連続で増加しております。

当社グループの属する業界も、健康意識の高まりが持続し、昨年4月より食品の新たな機能性表示制度が始まる等大きな変革期を迎えました。但し、異業種を含む大手企業の新規参入など更なる競合激化は続いており、当社グループを取り巻く環境は依然として厳しいものとなっております。

このような状況のなか、当社グループとしては、「伝統と技術と人材力を価値にする」をビジョンとして昨年6月からの機能性表示食品「ヘルスイド シリーズ」の新発売など積極的な諸施策・諸活動を展開しております。その結果、売上高は5,301百万円と前年同四半期と比べ292百万円の増収となりました。

利益面においては、コストダウン諸施策による原価率の低減により、売上総利益は2,711百万円と前年同四半期と比べ139百万円の増益となりました。また経費の効率化等に努めた結果、営業利益は117百万円と前年同四半期と比べ64百万円の増益となり、さらに営業外損益を加えた経常利益は120百万円と前年同四半期と比べ62百万円の増益となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は84百万円と前年同四半期と比べ41百万円の増益となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### ヘルスケア事業

当セグメントにおきましては、昨年6月からの機能性表示食品の新発売などにより売上は好調に推移しましたが、ヘルスケア事業の売上高は3,627百万円と前年同四半期と比べ58百万円の増収に留まりました。

損益面では、売上高が好調に推移する中、回転率の悪い商品を評価減するなど在庫の整理をした結果、セグメント損失は210百万円と前年同四半期と比べ12百万円の減益となりました。

#### カプセル受託事業

当セグメントにおきましては、フレーバーカプセルは引き続き順調に推移した一方で、医薬品カプセルやその他の受託は前年同期比で落ち込み、その結果、カプセル受託事業の売上高は1,666百万円と前年同四半期と比べ233百万円の増収となりました。

損益面では、コストダウン諸施策による原価率の改善や効率的な研究開発投資に努めた結果、セグメント利益は316百万円と前年同四半期と比べ76百万円の増益となりました。

## (2) 財政状態の分析

### (資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、13,297百万円と前連結会計年度末と比べ371百万円(2.7%)の減少となりました。総資産の内訳は、流動資産が4,873百万円と前連結会計年度末と比べ64百万円(1.3%)の増加となり、固定資産が8,423百万円と前連結会計年度末と比べ435百万円(4.9%)の減少となりました。流動資産の増加の主な要因は、現金及び預金の増加によるもので、固定資産の減少の主な要因は、減価償却の進捗による固定資産の減少及び有価証券の減少によるものであります。

### (負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、4,323百万円と前連結会計年度末と比べ210百万円(4.6%)の減少となりました。負債の内訳は、流動負債が2,805百万円と前連結会計年度末と比べ377百万円(15.5%)の増加となり、固定負債が1,517百万円と前連結会計年度末と比べ587百万円(27.9%)の減少となりました。流動負債の増加の主な要因は、長期借入金の約定返済による1年内返済予定額の増加により、固定負債から流動負債へ552百万円が移行した事が主な要因であります。

### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産は8,973百万円と前連結会計年度末と比べ160百万円(1.8%)の減少となりました。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、1,770百万円と前連結会計年度末と比べ184百万円(11.6%)の増加となりました。

当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

#### 営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の増加は639百万円(前年同四半期連結累計期間は307百万円の増加)となりました。その主な要因は、税金等調整前四半期純利益120百万円、減価償却費362百万円、売上債権の減少48百万円、たな卸資産の減少139百万円、仕入債務の増加4百万円などによるものであります。

#### 投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は138百万円(前年同四半期連結累計期間は136百万円の減少)となりました。その主な要因は、有形固定資産の取得81百万円、事業保険解約返戻金67百万円によるものであります。

#### 財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の減少は317百万円(前年同四半期連結累計期間は251百万円の減少)となりました。その主な要因は、長期借入金の返済165百万円、配当金の支払152百万円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は430百万円であります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	48,000,000
計	48,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成28年11月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	20,750,000	20,750,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数1,000株
計	20,750,000	20,750,000	-	-

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年9月30日	-	20,750,000	-	3,537	-	963

(6) 【大株主の状況】

平成28年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社森下泰山	大阪市中央区玉造1丁目2-40	5,476	26.4
ロート製薬株式会社	大阪市生野区巽西1丁目8-1	1,775	8.6
公益財団法人森下仁丹奨学会	大阪市中央区玉造1丁目2-40	1,056	5.1
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	660	3.2
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6-6	555	2.7
株式会社ラクサン	大阪市中央区南新町2丁目3-7	532	2.6
株式会社大正銀行	大阪市中央区今橋2丁目5-8	440	2.1
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都港区浜松町2丁目11-3	440	2.1
森下仁丹取引先持株会	大阪市中央区玉造1丁目2-40	288	1.4
フジモトHD株式会社	東京都千代田区内神田3丁目3-7	216	1.0
計		11,439	55.1

(注) 1. 公益財団法人森下仁丹奨学会は、学資の給付等の育英奨学事業を行っている財団であります。  
2. 上記のほか当社所有の自己株式409千株(2.0%)があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 409,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 20,203,000	20,203	-
単元未満株式	普通株式 138,000	-	-
発行済株式総数	20,750,000	-	-
総株主の議決権	-	20,203	-

(注) 「単元未満株式」欄には、証券保管振替機構名義の株式が300株含まれております。

【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 森下仁丹株式会社	大阪市中央区玉造 1丁目2-40	409,000	-	409,000	2.0
計	-	409,000	-	409,000	2.0

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成28年7月1日から平成28年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,586	1,770
受取手形及び売掛金	1,323	1,275
商品及び製品	902	739
仕掛品	372	408
原材料及び貯蔵品	425	412
その他	210	279
貸倒引当金	11	11
流動資産合計	4,809	4,873
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,153	2,068
機械装置及び運搬具（純額）	1,606	1,474
土地	2,217	2,217
建設仮勘定	7	13
その他（純額）	288	249
有形固定資産合計	6,274	6,024
無形固定資産	216	208
投資その他の資産		
投資有価証券	2,218	2,111
その他	149	79
貸倒引当金	0	0
投資その他の資産合計	2,367	2,190
固定資産合計	8,858	8,423
資産合計	13,668	13,297

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,130	1,134
1年内返済予定の長期借入金	330	717
未払法人税等	72	64
賞与引当金	167	155
返品調整引当金	58	60
売上割戻引当金	25	22
ポイント引当金	40	40
設備関係支払手形	56	52
その他	549	559
流動負債合計	2,428	2,805
固定負債		
長期借入金	867	315
繰延税金負債	734	687
退職給付に係る負債	501	513
その他	1	1
固定負債合計	2,105	1,517
負債合計	4,533	4,323
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,537	3,537
資本剰余金	963	963
利益剰余金	4,000	3,932
自己株式	137	137
株主資本合計	8,364	8,296
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	765	672
退職給付に係る調整累計額	4	4
その他の包括利益累計額合計	770	677
純資産合計	9,134	8,973
負債純資産合計	13,668	13,297

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	5,009	5,301
売上原価	2,437	2,590
売上総利益	2,572	2,711
販売費及び一般管理費	2,518	2,593
営業利益	53	117
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	12	13
事業譲渡益	-	5
その他	3	3
営業外収益合計	15	23
営業外費用		
支払利息	8	6
保険解約損	-	10
その他	2	3
営業外費用合計	10	19
経常利益	58	120
税金等調整前四半期純利益	58	120
法人税、住民税及び事業税	21	41
法人税等調整額	5	4
法人税等合計	15	36
四半期純利益	42	84
親会社株主に帰属する四半期純利益	42	84

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	42	84
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	120	92
退職給付に係る調整額	0	0
その他の包括利益合計	121	92
四半期包括利益	163	8
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	163	8

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	58	120
減価償却費	356	362
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	25	11
貸倒引当金の増減額（は減少）	0	0
返品調整引当金の増減額（は減少）	30	2
賞与引当金の増減額（は減少）	0	11
売上割戻引当金の増減額（は減少）	3	2
受取利息及び受取配当金	12	14
支払利息	8	6
売上債権の増減額（は増加）	49	48
たな卸資産の増減額（は増加）	378	139
仕入債務の増減額（は減少）	472	4
その他	198	17
小計	315	685
利息及び配当金の受取額	11	13
利息の支払額	8	6
法人税等の支払額	11	53
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>307</b>	<b>639</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	108	81
無形固定資産の取得による支出	26	32
投資有価証券の取得による支出	6	35
貸付けによる支出	-	51
保険積立金の解約による収入	-	67
補助金収入	3	-
その他	2	5
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>136</b>	<b>138</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	190	165
配当金の支払額	61	152
その他	0	0
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>251</b>	<b>317</b>
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	80	184
現金及び現金同等物の期首残高	1,500	1,586
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,420	1,770

【注記事項】

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
販売促進費	416百万円	316百万円
広告宣伝費	397百万円	506百万円
人件費	563百万円	599百万円
賞与引当金繰入額	92百万円	85百万円
研究開発費	391百万円	430百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
現金及び預金	1,420百万円	1,770百万円
現金及び現金同等物	1,420百万円	1,770百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	61	3.00	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	152	7.50	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	ヘルスケア 事業	カプセル 受託事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,568	1,433	5,001	7	5,009	-	5,009
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	139	139	139	-
計	3,568	1,433	5,001	147	5,148	139	5,009
セグメント利益又は損失( )	198	239	41	12	53	-	53

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	ヘルスケア 事業	カプセル 受託事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,627	1,666	5,293	8	5,301	-	5,301
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	141	141	141	-
計	3,627	1,666	5,293	149	5,443	141	5,301
セグメント利益又は損失( )	210	316	105	12	117	-	117

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、一部の製品についてセグメント区分を変更しております。なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分により作成したものを記載しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	2円09銭	4円14銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	42	84
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	42	84
普通株式の期中平均株式数(千株)	20,342	20,340

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年11月7日

森下仁丹株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 生 越 栄美子

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 南 方 得 男

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている森下仁丹株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成28年7月1日から平成28年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、森下仁丹株式会社及び連結子会社の平成28年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。